

平成26年度宮古群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	60	30	30
平年並	30	30	40
低い(少ない)	10	40	30

(平成26年11月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.7	22.0	17.8	131.3	101.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

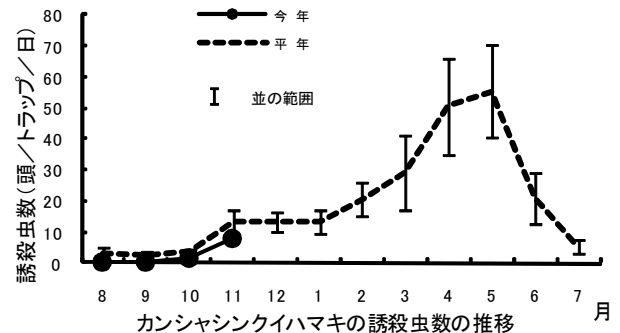
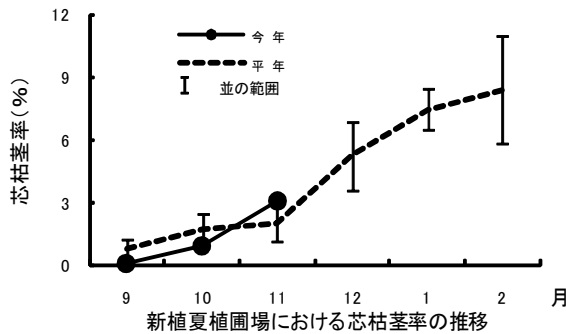
1 さとうきび

(1) カンシャシンクイハマキ

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.1%(前年1.4%、平年2.0%)と平年よりやや高かった。
- b 11月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は8.3頭(前年26.9頭、平年13.5頭)と平年よりやや少なかった。

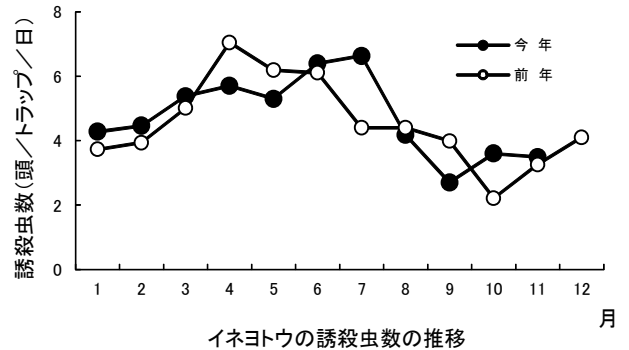
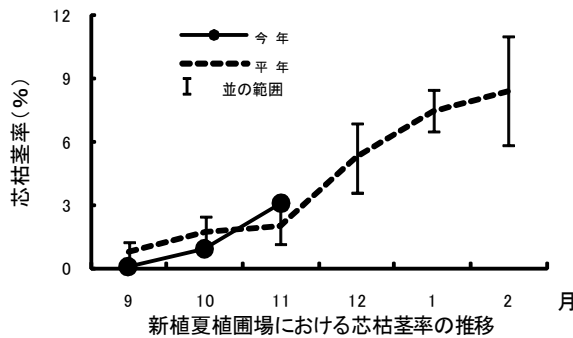


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.1%(前年1.4%、平年2.0%)と平年よりやや高かった。
- b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.3頭(前年1.6頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成26年度病害虫発生予報第6号(平成26年8月28日付)コラム参照。

○ 野その防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、被害茎率は1.2%(前年0.9%、平年0.6%)と平年より高かった。
- b 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- c 剥葉残さなどの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

2 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は1.2頭(前年0.9頭、平年1.1頭)と平年並であった。
- b 不要な新梢を除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

○ ハダニ類の防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は1.5頭(前年0頭、平年0.5頭)と平年より多かったが、一部ほ場で多発した。
- b 新葉や葉裏にも寄生するので、薬剤は丁寧に散布する。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期防除に努める。

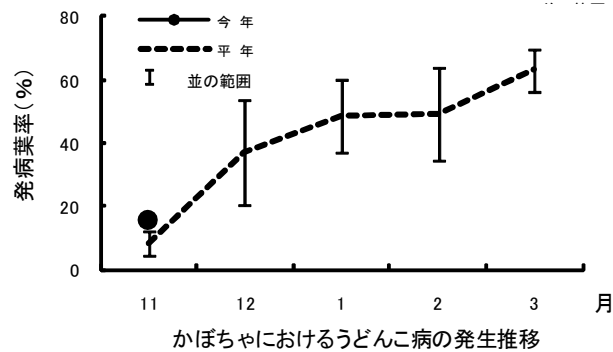
3 かぼちゃ

(1) うどんこ病

発生程度 : 並

予報の根拠

11月中旬の調査の結果、発病葉率は15.8% (前年4.2%、平年8.3%)と平年よりやや高かったが、一部ほ場で多発した。



<防除上注意すべき事項>

- 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- 着果後は防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。